4　シロエイ *Dasyatis laevigatus* の分類と生物学的知見について

Taxonomy and biology of the yantai stingray, *Dasyatis laevigatus*

古満啓介・山口敦子（長崎大水産）・西田清徳（大阪海遊館）
Keisuke Furumitsu, Atsuko Yamaguchi (Faculty of Fisheries, Nagasaki University)
and Kiyonori Nishida (Osaka Aquarium Kaiyukan)

【目的】アカエイ科アカエイ属に属するシロエイ *Dasyatis laevigatus* は、1960 年に初めて中国で記載された(Chu 1960)。それによると、シロエイの体盤背面は滑らかで、黄色味がかった灰茶色、体盤腹面は白く、黄色味がかった灰色で縁取られているとされ、分布は中国黄海、東シナ海沿岸とある。外部形態の計測値については、体盤幅は体盤長の 1.2～1.3 倍、尾部長は体盤長の約 1.4～1.8 倍など、わずかな部位についてのみ述べられているだけで詳しい記述はされておらず、その後もシロエイに関する研究報告はほとんどない。中坊(2000)によると、日本では五島灘に分布するとされているが、シロエイの分類や生態についての研究報告は見当たらない。

そこで本研究では、長崎周辺海域で採集したシロエイを用いて再度その分類学的検討を行なうことを目的とし、外部形態、内部形態などを計測した。また、成熟や食性などの生物学的特性についてもあわせて調査した。

【方法】2003 年 5 月～2004 年 11 月に長崎周辺海域(水深 3～60m)で刺網、底曳網、竹羽瀬、または定置網により採集したシロエイ 141 個体（雄 59 個体、雌 82 個体）について、外部形態（雄 33 部位、雌 30 部位）を計測した。計数形質として脊椎骨数、腸らせん弁数などの計数も行なった。これらとのデータと、Chu(1960)に記載されたデータとの比較を行なった。シロエイの成熟サイズについては、雄ではクラスパー長、雌では子宮重量から推定した。また、胃内容物の種査定を行ない、各個体について重量%(%W=ある餌生物の重量／胃内容物重量×100)と、出現頻度(%F=ある餌生物の出現個体数／調査個体数×100)を算出した。

【結果】長崎周辺海域で採集されたシロエイの体盤背面には小瘤状物がなく滑らかで、こげ茶色であり、体盤腹面は白く、灰色で縁取りされていた。体盤幅は体盤長の 1.1～1.2 倍、尾部長は体盤長の 1.2～2.0 倍であった。今回計測した外部形態 30 部位のうち、雌雄間で有意差が認められたのは 1 部位であり、雌雄の外部形態に大きな差は見られなかった。全脊椎骨数は 98～123、腸螺旋弁数は 15～20、口腔内乳頭状突起数は 2～7 であった。中国で記載されたシロエイと、長崎周辺海域で採集したシロエイとの比較を行ったところ、体盤の色や形などの特徴は一致したが、Chu(1960)での調査個体数が 7 個体と少ない上に計測データもほとんど記述されていないため十分な比較ができなかった。タイプ標本も今現在見つかっておらず、今後中国で標本を採集して、検討する必要がある。

成熟サイズは雄で 230mm、雌で 300mm と推定された。食性については、重量%から見ると一年を通じてアミ類を多く摂餌しており、その割合は春から冬にかけて多くなることが分かった。出現頻度で見てもアミ類が最も多く、次いで多毛類、その他の甲殻類を多く摂餌することが分かった。また歯には他のアカエイ属魚類と同様に性的二型が認められ、雄では成熟するにつれ歯が鋭利になることが確認された。